

2173再構築 14

1 ケルテ : 王冠

エリー

本文

生命の樹に従って、「2173再構築」を整理してみようと思い立った。
続けるか分からないけど、10まで行きたいね。

単数はセフィラ、複数はセフィロト。

神的属性＝セフィロト。

※「トートの書」（アレイスター・クロウリー）より。

1 ケルテ：王冠

同じ人間なのに、命令する人とされる人を区別しているものこそ、「王冠」だろう。

<電子辞書の広辞苑で調べた言葉>

おうかん〔王冠〕

そんげん〔尊厳〕

とうとい〔尊い・貴い〕

おごそか〔厳か〕

おかす〔犯す・侵す・冒す〕

こうき〔高貴〕

じゆう〔自由〕

びょうどう〔平等〕

はくあい〔博愛〕

<ネットで調べたこと>

フランス国旗の意味：自由・平等・博愛

青・白・赤のトリコロール。

（そういえば、ロロはフランス人の男性の名前。偶然だけど関連あるね！）

つまり、強制参加だったところから、自由参加になって、個を重視した結果が資本主義なのか？

「必要に迫られて、食べて、寝る」以外のことをするためには、創造力が求められる。

作らなくても、自然にとれて
守らなくても、敵がいなくて
気ままに暮らせるのに、それ以上を求める人は、「普通」だろうか、「変わった人」だろうか

。「好きなことだけしていたい！」と欲望のままに生きる状態から、一步を踏み出して、義務を果たすことを「社会参加する=大人」というなら？

与えられなければ、自分でなんとかするしかない。
しかし、与えられているなら、守られる側から守る側に移行することが求められる。
「いつ移行するか？」は、けっこう難しい問題。

未熟なものをまぜるのはめんどくさい。
「成功したことがある人たち」で固めた方が、成功率が上がると考えやすい。
立場を追われる状況も避けたい。
だから、いつまでも役割を明け渡さない。
そんな問題が起きる。

「慣れて、手を抜いて、衰退していく」がよくある出来事なら、それを防ぐだけの情熱と才能を持った人は稀だ。

つまり、与えられるままに、好きなことだけして生きる、「子どもの状態」が基本であって、それ以上をする人は変わった人だ。

「老・病・死」という大きな問題を何とかしようとして、大掛かりなことをする人は、さらに少ない。

王さまが最初に取り組んだ大問題は、自然災害だろう。
川の氾濫を何とかしようとして、文明が生まれた。

川が氾濫して困る。
それは、誰もが感じていることだ。
しかし、「では、どうしたらよいか？」は大半の人は分からない。

自然を神とあがめて、無力さを受け入れる人がほとんどの中で、神である自然を開発する行為は、反感を持たれる。

簡単には出来ないから、「神には勝てない」と否定する人も多かったらう。

技術的な問題がまず問われる。

「どうすれば氾濫しなくなるのか？」という方法が分かったとしても、とても一人では実現できない。

人を集めて、失敗しても、成功を信じて、人々を導いていく人が現れるまで、「困る」以上にはなれなかった。

今も、セメントで固めるのはよくないとか、生態系を壊したら駄目だとか、「やり方」に結論は出てないけど、全くの自然状態から加工した「初めの一人」に比べて、「人の手で川の氾濫を防ぐことはできるし、やるべきだ」という共通認識がある。

だから、参加を強要しなくても、税金の中から、「必要なお金」として予算を確保することができる。

「いいこと」「必要なこと」「成功する確信があること」には人が集まりやすいが、どうなるか分からないことには人はなかなか集まらない。

「した方がいいこと」は、いっぱいある。

ただ繰り返すだけでなく、現状に合わせて工夫することで、現状を維持できる。

それは一つの巨大なシステム。

制度と設備と人が結びついたもの。

そのシステムなしに、生きられる人は少ない。

しかし、生まれた時から「システムを与えられて、守られている」という意味では、誰もが子どもの立場から始まる。

システムを作ったり、改良したりする側を目指す「大人」は少ない。

「食べるために働かなくてはならない」は、よく言われる。

しかし、「システムを再構築しなければならない」とは言われたいし、それができる人は天才だと思われている。普通ではない。

ここで問題なのは、システムは「存在」しているが、「具体的には知らない」という人がほとんどであること。

なぜなら、作る過程に参加してないし、自分が「必要」と感じて行動した結果ではないから。

「世界を把握し、より良くしたい」という夢を持つことはあっても、そのために具体的な一歩を踏み出す人はかなりの変人扱いされる。

(あ、わたし、この分類でいくと、変人に含まれてしまう!?)

(どうしても、どうしたらいいか分からなくて、実現計画ではなく、理想世界を語るという創作に方向転換したんだけど、そもそも思った時点で変わっているのかもしれない・・・)

(びっくり!!)

(でも今井さんよりは変わってないから大丈夫^^)

システムは、提供する人がいなければ、利用できない。

政治システムでも、経済システムでも、運営側になる人がいなければ、利用者になれない。

それは「自由」が与えられたから起きた問題。

かつて、「利用者」はいなかった。

なぜなら、全員が運営側で、指導する人・される人という区別があっただけだから。

極端な例だと、国民は王さまの所有物であり、何の権利もなかった。

システムを維持するために、一方的に命令されるだけの存在だった。

なぜ、そんな立場に甘んじていたのかといえば、システムの外で生きる方法がなかったから。

システムに頼らなくても生きられるなら、逆らって逃げ出すことができた。

それは、主に強い人たちに限られた。

悪いことをする人も多かった。海賊とか、強盗とか、システムに従う人たちを利用しつつ、自分たちのルールで生きる。

今も、昔も、ずっと存在している。

あるいは、国を二分する大決戦として、覇権を争うこともできた。

どちらにしろ、病弱で生きていくことが精一杯なわたしのようなタイプは、システムの外には出られないから、生まれた場所が運命を決めてしまう。

余裕のある家に生まれれば、一生家族に扶養されて、家長の意志に従って生き延びただろう。

貧しい家に生まれたなら、働けないものを養う余裕はないから、捨てられるか、殺されるか、短命だっただろう。

どっちにしる厳しい一生だ。

今も、世話になっているから、似たようなものだけど、自らの意志で勉強する自由はある。システムのただのりで得をしているわたしが、それを否定する厳しい世界を書くのは、システムの有りがたさを実感しているから。

失ってからでは遅いと思うから、「自分に有利」ではなく、「道理の通ったこと」を念頭に置きたいと考えている。

もし2100年代に、わたしが自由区で生まれて、保護区で育って、入寮したら、ついていくのが大変だろう。

それでも、なんとか卒寮できたら、わたしは保護区で生きることを選ぶと思う。

ララのように、口口を追って自由区には行かないだろう。

なぜなら、「国土を守る」という大義名分をよいことだと感じているから。

信じられることがあるなら、それに全てをかけて、包まれる生き方を選んだだろう。

それがどれだけ自分にとって厳しくても、「わたし」というものを持つことなく、「集団の一員」として生きることを選んだと思う。

信じるものが見つからなかったから、はみ出してしまったけど、基本的に「みんなと一緒に」が好きだから、「みんなのため」という理由に疑念を持たないと思う。

でももし、2500年代の腐敗した時代に生まれたなら、やっぱりわたしは逆らって答えを求めよう。

システムをどう運営するかで、国から民間に主体をうつしても、「手を抜く」という問題はなくなる。

「わたしの会社（国）を良くしよう」と思っても、成功するかどうか分からない。

しかし、「やっているフリで、お金さえ手に入ればよし」となったら、絶対に成功しないだろう。

景気がいいときなら、それでもある程度は続くかもしれない。

だが、不景気の今、その姿勢で長くは続かないだろう。

そもそも、全てのシステムを把握しようと思ったら、それだけで人生が終わってしまうほど巨大なものになった今、本当は機能を失っていて、再構築しなければならなくても、直接問題に関わってなければ、「システムに守られている」と信じて疑わないからあるように思っているだけで、何もないかもしれない。

わたしは、疑問に思ったから、自分が望む世界を求めた。

「このまま働けば給料が上がって、いい暮らしができるよ」と言われたけど、「同じ仕事を繰り返しているだけなのに、なぜ給料があがるのか？」と疑問に思って、「どうしても真偽が知りたい。もっと勉強したい」と思ったから、あらゆることを犠牲にして、ひたすら答えを求め続けた。

歴史に興味を持って、マンガ日本の歴史あたりから読み始めた。

あとは、ひたすら辞書を引いた。

簿記も習ったし、実際にケーキ屋の店員にもなった。

それはすごく小さな一歩だったし、結局、どうにもならなかったけど、実現計画を求めている。

「どうしても答えが知りたい！」と動いている間はいいけど、行き詰ることも頻繁で、誰かが答えてくれると期待しながら、結局答えは得られなくて、悲壮な気持ちで楽園を求め続けた。

なんとなく、「二つに分けよう」と思ったから、何に対する改革なのか分からなくて困っていたけど、今日分かった。

途中にも書いたけど、「システムのただ乗り」を批判して作られた世界なんだ。

「共有できるシステムを維持すること」で互いに支え合う生き方と、「生み出されたシステムを利用して自分の考えを実現すること」は、分けて考えなければならない。

互いに支え合うのは、政治団体と言える。

自分の考えを実現する自由は、経済的自立と言える。

政治的に安定しているから、経済的な自由を謳歌できる。だから、利用料を払わなければならない。

政治団体に所属している人は、労働力で払う。

「システム」を明確に定義し直して、「すること・しないこと」を区別して、条件下での平等を実現する。

それを維持するお金を払った人が、自由区の支配者として君臨する。

「利用料を払わず、システムにただ乗りする人」が一番下に置かれる。

システムを維持する人が、聖なる存在で、法律決定権を持っている。

利用料を払って自由を買った人たちが、俗人として経済を回す。

労働力も提供せず、利用料も払わず、システムにただ乗りしている人は、義務もないが、権利もない。

自由を選んで自活できない場合、善意に頼って放置される。

仕事が欲しいなら、買ってくれた相手の仕事を買わなくては、平等にならない。

「売り方」が強調されて、「買い方」が忘れられたから起きた問題なら、「買い手」としての存在から再構築すればよいと思った。

「必ず買う人＝選択の自由を放棄した人」を、労働力を提供して、システムを維持する人の条件に加えた。

その理屈を教え込む場が、子どもの労働力を買って、自分のおこづかいから、子どもへのおこづかいを支払うという関係。

16歳以上の大人が、自分が欲しいものを、全額自由区で使ってしまえば、12歳以下の子どもにお金が流れない。

だからといって、他人の子どものために、全く望まない労働を買うことはしないだろう。

落語に、父親の興味を引いて、「この続きが聞きたかったらいくら」と小銭をせびっていく話がある。

結論から言えば、「お母さんがあんまを呼んだ」というだけの話。

それを、いかにも「浮気しているのではないか」と父親をやきもきさせて、お金を出させる子どもの悪知恵の面白さを描いたもの。

そういうのって、一回は通用するけど、二度目、三度目になると騙されなくなる。

それをひっかけるのは、そうとう工夫しないとだめだろう。

「洗濯物をたたむ」とか雑用は自分でもできるから、真っ先に節約する部分だろう。

その点、こういう刺激は、相手あってのことだから、うまくやればすごく儲かる。

ただ、それで儲ける人物を書くことは、わたしには難しいが。

そういうものを売る人も必要だけど、システム維持には何の貢献もしていない、「あぶく銭」であるのも事実。

区別する必要はあると思う。

たとえ、それが人の心を動かすすごい力を持っていたとしても、歌や絵の大量コピーで、一人が大金を手にしても、システム維持には何の貢献もしない。

別の話。

だから、利用料を払うことを求める。

それを拒否して、お金を持ち続けても、誰が指導者に君臨して、何をするか分からない以上、お金だけ持っていて、運営に参加しないことは危険な賭けだ。

法律はあるし、それを変える権利は、保護区で生きる、システムを労働力の提供で維持する側が持っている。

虐殺はできないが、国内都市や国際都市など、都市単位で開発する権限はある。

その施設の利用料をとられたなら、税金を払うのと同じこと。だから、監視していなければ怖いだろう。

一律課金なら、お金持ちほど得をする。

「施設を利用しない」と拒む権利はないが、やたらに施設が作れるなら、1つ1つは安くても、積み重なれば結構な金額になるだろう。

もし、「システム利用料を吊り上げればいい」と保護区が労働に手を抜いて、お金で解決しようとしたら、このシステムは終わる。

それが、2500年代の姿。

=====

まとめ。

「システムは必要か、不要か？」なら、「必要」だと考えている。

システム=設備であり、法律であり、支える人。

そのシステムがあるからこそ生まれる経済的自立のある自由な世界は、利用料を払う人にゆだねられる。

都市単位で運営されるので、一律の世界ではない。

他国との競争窓口でもある。

システムに労働力を提供できない弱者は、保護区を選べない。

管理区で、団体生活をおくる。

差がつけられる。

システム内において、平等ではない。

保護区では、一人一軒与えられる。

大人は一人暮らしが基本。

12歳までの子どもなら一緒に住める。

基本は、大人一人につき、子ども一人。

利用料を払うか、労働力を提供することで、システムの維持に貢献する人を一人前と認める。

そうでない人は、保護するなら制限させるし、自由を求めるなら自力で稼ぐ必要がある。

今と違って、システムのただ乗りに冷たい。

13から15の3年間に、寮に入って、工業勤務すれば、誰でも保護区に入る資格が与えられる。

40までなら、自由区に出ても戻ることはできるが、そんなに頻繁に出入りすることはできない。

40以降は、特別の許可がなければ、保護区に入れず、戻れない。

経済的な成功を求めて、本当に成功したら、自由区の政治に参加することが期待される。

そんな感じ。